

ビデオセッション2

「十二指腸腫瘍の診断と治療の工夫」

司会 矢作 直久（慶應義塾大学医学部腫瘍センター）

志村 貴也（名古屋市立大学大学院医学研究科消化器代謝内科学）

近年、十二指腸腫瘍の発見例が増えているが、生検の正診率は高くなく、生検癒痕はその後の内視鏡治療を困難にすることから、画像診断がより重要である。また、治療においては、CSP・EMR・underwater EMR・ESD・D-LECSなどが選択されているが、それぞれの手技にも課題がある状況である。本セッションでは、十二指腸腫瘍に対する診断・治療の工夫を提示していただき、今後の内視鏡治療の方向性を考えたい。